

科目番号	53023	分類	専門科目 応用看護学領域	履修者	看護科学コース	学年	
科目名	放射線保健学特論Ⅰ ( Advanced Course in Radiological Health Sciences 1 )					1	
						配当セスター	
						前期	
担当者	○酒井 一夫 ・ 小野 孝二 ・ 草間 朋子	区分	選択	単位	2	時間数	30
授業の概要および目標					学位授与の方針との関連		
<p>【概要】 放射線に関する基礎的事項を学ぶとともに、どのような考え方・体系の下で放射線保健が実践されているかを概観する。</p> <p>【目標】 1. 放射線・放射能に関する基礎知識を習得する。 2. 国際放射線防護委員会 (ICRP) 勧告に基づく、放射線保健の体系について理解する。</p>					○	1. 看護学の継承・発展を担うための研究能力 2. 臨床現場で「つかえる」エビデンスを「つくり」「つたえる」ことができる能力 3. 臨床現場との連携を図りながら看護基礎教育を担うことができる能力 4. 看護管理者として、臨床現場においてリーダーシップをとりながら、エビデンスに基づく看護マネジメントができる能力 5. 実践を行いながら学部学生の臨地実習を指導できる能力	
授 業 計 画							
回	内 容						担当教員
第1回	放射線保健学が目指すもの						草間
第2,3回	放射線の基本的性質						酒井
第4,5回	放射線の量						酒井・小野
第6,7回	放射線の健康影響 (組織反応)						酒井
第8,9回	放射線の健康影響 (がんと遺伝性影響)						酒井
第10,11回	放射線保健の考え方						酒井
第12,13回	放射線の医療利用と患者および職業人の被ばく						草間
第14,15回	我が国の放射線規制体系						草間
事前・事後学習	事前学習として、ICRP (国際放射線防護委員会) の役割を理解しておくこと。 事後学習として、看護職と放射線診療の係わりを再認識し、学んだスキルの実践現場への適用を考察する。 単位と時間数に応じた学習時間 (学生便覧参照) を参考に組み組むこと。						
評価の方法	授業への出席 (20%)、筆記試験 (80%) フィードバックは適宜行う。						
参考図書 ・資料等	ICRP Publication 103, (国際放射線防護委員会の2007年勧告) . 日本アイソトープ協会. ICRP Publication 118 (ICRP Statement on Tissue Reactions / Early and Late Effects of Radiation in Normal Tissues and Organs : Threshold Doses for Tissue Reactions in a Radiation Protection Context)						
備 考	オフィスアワーについては、学生便覧を参照し、教員と日程調整をする。						